

平成20年度 田園自然再生活動コンクールの表彰式を開催!

～ 自然と共生する農村づくりの取組事例～

農林水産省と農村環境整備センターでは、平成15年度から環境省等と連携して、農業・農村のもつ豊かな自然環境の保全・再生を図るため、農家の皆さんと地域住民、NPOなどが協力して行っている自然と共生する農村づくり「田園自然再生活動」の取組を広く募集し、優良事例について表彰しています。

今年度は、全国のNPO、農業者団体など70事例の応募の中から、農林水産大臣賞を始めとした7賞が選定され、この表彰式が1月16日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催されました。



農林水産大臣賞

伊尾・小谷たえクラブ

(広島県世羅町)

当地に生息していたギフチョウ等の生息環境保全のために、博物館を中心に農家、地元自治会、小学校、大学等がミヤコアオイの植栽・管理活動を行い、その後、近隣で生息地を失ったダルマガエルの移植に取り組み、小学校の環境学習と併せて、ダルマガエルの生息環境に配慮したダルマ米の生産に取り組み、地域全体に農と生き物の暮らしを結び楽しさを伝えている。



ダルマガエル保全ビオトープ設置



ビオトープでの「ダルマガエル米」の田植え

農村振興局長賞

ながさき 長沢環境保全の会、長沢ふなっ子の会

(滋賀県米原市)

琵琶湖特産のニゴロブナ等の生息環境を、排水路堰上げ式の魚道整備により復元するとともに、集落営農により「魚のゆりかご水田米」の生産に取り組むなど、「魚と共に育った安全安心なお米づくりの村」を目指している。ゆりかご水田でのお魚観察会には、地元子どもとともに近くの一般市民も集まり、環境学習や地域交流の場として地域づくりに取り組んでいる。



排水路堰上げ式魚道の設置設置



ゆりかご水田・排水路でのお魚観察会

自然環境局長賞

にいやまさんやそう 新山山野草等保護育成会

(長野県伊那市)

希少種であるハッチョウトンボの生息している湿地に車が乗り入れるなど、生息環境を脅かす出来事があったことから、それを防ぎつつ自然学習の場として活用するために「トンボの楽園」を整備し、生息環境を保全・管理している。また、荒廃化した農地を整備し、ザゼンソウなど地域に自生する山野草の植栽・繁殖に取り組んでいる。



トンボの楽園での木道整備



トンボの楽園での親子自然学習

子どもと生きもの賞

もとし おおや 本吉町立大谷中学校

(宮城県本吉町)

3年間を通して取り組む環境保全教育を行っており、近隣の幼稚園や老人クラブなどと連携して、1年生が松枯れ対策として黒松の植林・アカゲラの巣箱設置、2年生が磯焼け調査や海藻の再生実験、3年生がふゆみずたんぼでの水稲栽培を行うなど、里山・里地・里海の広範にわたる活動により地域の環境保全に取り組むとともに、地域を想う気持ちを育てている。



ふゆみずたんぼでの除草作業



たんぼの生きもの調査

パートナーシップ賞

特定非営利活動法人五泉トゲソの会

(新潟県五泉市)

地元農家、研究者、教育関係者、東京在住の地元出身者、大学生など多様な主体の連携により、絶滅危惧種であるトゲソ(イバラトミヨの地域俗称)を保全するため、トゲソの生息地・水路の保全、観察会や清流スクールの開催、生息調査、小学校総合学習の支援、他の生息地との交流、一般市民への啓発等幅広い活動を展開している。



トゲソの生息地の保全



小学校の総合学習(水路での現地学習)

オーライ！ニッポン賞

きたおしお ゆーとびあ 北小塩友人ピア環境保全推進協議会

(宮城県大崎市)

地区内の農業用土水路をそのまま残し「北小塩友人ピアいきもの水路」と命名して、水田魚道の設置などにより魚類、貝類等の生態系を保全している。また、減農薬・減化学肥料稲作栽培など生き物に配慮した農業生産に取り組むながら、生きもの観察会や田植え・収穫体験などを通じて都市住民との交流を展開している。



都市住民との交流イベント(収穫体験)



いきもの水路での生物観察会

朝日新聞社賞

特定非営利活動法人新里昆虫研究会

(群馬県桐生市)

荒廃した山林・田畑を再生管理することで昆虫の生息地を蘇らせるとともに、「新里自然体験村」と名付け、小中学生や会員の自然体験教室、昆虫調査、棚田の田植え等の活動フィールドとして活用している。また、地域活動として地域内のため池の管理やホテルの保護活動、彼岸花の里づくりに取り組むなど、まちづくりに関わる幅広い活動を展開している。



荒廃した山林の再生・管理



小中学生による昆虫調査

第6回オーライ！ニッポン大賞決定

第6回オーライ！ニッポン大賞について、審査委員会(会長:川勝平太静岡文化芸術大学学長)による審査が行われ、オーライ！ニッポン大賞、審査委員長賞の各賞受賞者が、決定されました。今回選ばれたオーライ！ニッポン大賞の4件とオーライ！ニッポンフレンドシップ大賞から審査委員会の審査によりオーライ！ニッポン大賞グランプリ(内閣総理大臣賞)が1件選ばれて、3月11日のニッショーホールにて開催される第6回オーライ！ニッポン全国大会にて表彰されます。

「オーライ！ニッポン大賞」は、全国の都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取り組みを表彰し、もって国民への新たなライフスタイルの普及定着を図ることを目的として、オーライ！ニッポン会議(代表:養老孟司東京大学名誉教授)、農林水産省ほかの主催で実施しているものです。

オーライ！ニッポン大賞

応募部門	都道府県	市町村	応募団体名	写真	取組の概要
農山漁村イキイキ実践部門	北海道	長沼町	長沼町グリーン・ツーリズム運営協議会		札幌市近郊の純農村地帯であり、新千歳空港にも近いという立地条件を生かし、未来の消費者である子供たちに食べ物や農業への理解を深めてもらうことを目的としてグリーン・ツーリズムに取り組んでいる。構造改革特区制度の活用等により各種の規制をクリアしつつ受入体制の整備を進めており、現在、1日の宿泊定数は1,076名(農家民宿数159戸)となっている。修学旅行の受け入れが盛んで、平成20年度には、小学校1校、中学校10校、高校14校の4,190名を受け入れている。
都市のチカラ部門	東京都	文京区	アストラゼネカ株式会社		年1回平日を休業して、全国55地区で3,000人の社員が参加する農山漁村ボランティア活動。2006年に本格的な社会貢献活動として、全従業員が一斉に取り組める活動として、「人と、人が支える環境に貢献する活動」を棚田保全活動に取り組んだ。事前にリーダーが現地を訪問し地域代表者と草刈り、稲刈り等の作業内容を確認。地元からも手が回らなかった耕作放棄田の整備に役立ち評価。これを契機に村づくり活動や棚田オーナーへの参加、家族で活動地区の祭りに参加する社員も出てきた。3年間でメディアに137回報道、2008年にはTVニュースに8件特集された。
農山漁村イキイキ実践部門	新潟県	阿賀町	NPOにいがた奥阿賀ネットワーク		自然や人材、歴史、文化、地場産業等の地域資源の総力を結集させ、地域と人の双方に活性化が見込める奥阿賀地域の再生事業として「体験交流型観光」を導入。民泊を基本に、「厚い人情と良質な食と本物の体験」を提供する奥阿賀体験教育旅行では、120件の受け入れ施設と70を超える体験プログラムを有し、一学年最大で250名程度まで受け入れが可能。7年の経験と実績があり、「安心・安全」と「教育的効果」について学校や保護者等から高い評価を受けている。
学生・若者カツヤク部門	鳥取県	鳥取市	特定非営利活動法人学生人材バンク		学生たちを中心に農作業ボランティアを募集し、過疎化・高齢化が進み、棚田保全や水路の維持などが困難となっている県内の農山村に派遣。田植えやイノシシ柵設置といった農作業だけでなく、集落の人達と一緒にワークショップ等を行い、イベント等を企画・実践するなど、若い力を生かした地域おこしに一役かっている。平成19年度は(11月30日現在)、55回の派遣で、延べ508人の学生(全体では約2,500名)が参加している。

審査員会長賞

応募部門	都道府県	市町村	応募団体名	写真	取組の概要
農山漁村イキイキ実践部門	岩手県	田野畑村	NPO法人 体験村 たのはた ネットワーク		平成16年度より漁村の営みを中心とした「番屋エコツーリズム」という体験型観光の受け入れを開始。本物の漁師が操縦する小型漁船で断崖を巡る「サッパ船アドベンチャー」、人と自然との関わりを肌で感じることができる象徴的空間を地元漁師がガイドする「机浜番屋群漁師ガイド」等、20を超えるプログラムを提供しており、平成19年度の体験者数は5,650人と初年度の434人から13倍以上の伸びとなるなど、地域への経済効果が大きい。平成21年度以降の教育旅行・体験学習の受け入れに向け、新たなプログラムの掘り起こしや民泊体制の整備等を進めている。
学生・若者カツヤク部門	東京都	新宿区	特定非営利活動法人 NICE (日本国際ワークキャンプセンター)		世界中の若者が2～3週間一緒に暮らし、地域住民とともに、環境・文化保護、福祉、農業などに取り組む国際ボランティアプロジェクト「国際ワークキャンプ」を実施。農山漁村が抱えるさまざまな課題の解決を目指し、国内外の若者たちを地域に派遣しており、これまでに参加した若者の数は2万人を超え、現在は国内の40カ所以上でプロジェクトを実施している。
農山漁村イキイキ実践部門	長野県	大田市	大北農業協同組合		全国に先駆けてJAが窓口となり、昭和46年7月より都市(消費者)と農村(生産者)とを結ぶ一つの手段として、農家民宿を活用した交流事業「夏休み子ども村」(小学生対象)をスタート。翌年から「春休みスキー教室」に発展し、年2回の交流事業へ拡大。以後、りんごの木のオーナー制度、日本生活協同組合連合会と連携したグリーンライフ、学校教育旅行の受け入れ等、取組み範囲を拡大し、発展を図っている。
農山漁村イキイキ実践部門	和歌山県	すさみ町	すさみ町商工会・都市と農山漁村交流事業推進委員会		漁業や釣り、農業などのすさみの生活文化を体感してもらい、交流人口の増加や定住、観光振興につなげようとの目的で、日帰り型の体験講座「海と里の大学」(農林水産省の広域連携共生対流等推進交付金事業に採択)を開校。地元の達人がインストラクターになり、釣具づくりから調理して食べるまで、楽しみながら魚に関するノウハウ全てを教えてくれる。また、イベント開催などにより姉妹都市である大阪府寝屋川市との官民一体となった交流を進めている。
農山漁村イキイキ実践部門	徳島県	勝浦町	坂本グリーン・ツーリズム運営委員会		廃校(旧坂本小学校)を都市との交流拠点施設(宿泊体験施設)「ふれあいの里さかもと」としてリニューアル。平成14年3月のオープン以降、地元のおじさん、おばさんがインストラクターを務める農業農村体験や地元の主婦たちが作る田舎料理などを中心に展開、独立採算でやっていける力をつけるなど、順調に運営されている。平成20年度には、子ども農山漁村交流プロジェクトの受入地域に登録された。

事務局からのお知らせ

お詫びと訂正

季刊「新往来」第31号（平成20年12月15日）のp21、イベント情報「龍泉洞みずまつり 岩手県岩手町」に誤りがありました。正しくは、「龍泉洞みずまつり 岩手県岩泉町」です。お詫びして訂正いたします。

皆様からの情報提供をお待ちしております！

「交流情報誌 季刊 新往来」は皆様からお寄せいただいた情報で構成されています。地域の自慢やイベントの案内など、全国に向けて発信したい情報がありましたら、ぜひご連絡下さい。

次号（第33号）の発行は、平成21年6月中旬を予定しておりますので、記入様式に必要事項をご記入の上、1月下旬までに各都道府県又は下記の編集・発行元までお送り下さい。記事に関連する写真・イラストがありましたら併せてお寄せ下さい。記入様式をご要望の場合は、お手数ですが下記の編集・発行元までご連絡下さい。

皆様からお寄せいただいた情報についてはできる限り掲載するよう努めておりますが、誌面スペースの関係上掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承下さい。

編集後記

「郷土料理大図鑑」が刊行されました

日本の郷土料理は、全国各地の農山漁村で受け継がれてきた食文化の代表であり、それぞれの地域の風土や歴史の中で個性を生かしながら創意工夫され、その美味しさとともに地域の誇りを育んできました。

農林水産省では、こうした全国の郷土料理を紹介することにより、農山漁村における身近な郷土料理の再認識と、広く国民の農山漁村への関心を高める機会となるよう、平成19年12月に「農山漁村の郷土料理百選」を選定しました。

この度、PHP研究所からこれら郷土料理百選等を写真とともに紹介した「郷土料理大図鑑」が刊行されました。

郷土料理百選選定委員の向笠千恵子氏（フードジャーナリスト、エッセイスト）監修のこの書は、小学生向けにわかりやすくまとめられており、郷土料理を通して、47都道府県それぞれの特産物・食習慣・歴史文化等を学ぶことができ、食育学習にも役立つ一冊です。

詳細は次のホームページをご覧ください。

<http://www.php.co.jp/bookstore/detail.php?isbn=978-4-569-68920-3>



特集記事募集

次号特集では、「農山漁村における雇用創出のための取組」について募集します！みなさまからの情報お待ちしております。

編集・発行

農林水産省 農村振興局 農村政策部 農村計画課 農村政策班
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL:03-3502-6001(ダイヤルイン)
FAX:03-3501-9580

- 農林水産省のホームページでは、季刊「新往来」や都市と農山漁村の共生・対流など、様々な情報を掲載しております。ぜひご覧ください。

農林水産省（<http://www.maff.go.jp>） 農村振興 都市と農山漁村の共生・対流（季刊 新往来）
（<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/sinourai/index.htm>）

